

飯島地区大規模雨水処理施設整備事業計画

(様式1)

項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	<p>飯島地区は、緊急輸送路として位置づけられている主要幹線道路を有し、区域内を走る主要道路である県道203号大船停車場矢部線の周辺および低地区に業務施設が集積しており、丘陵部は宅地開発による住宅地である。区域内の降雨は、東部および北西部の丘陵部から南東部の低地区部に集水し河川に到る。この地区の主要排水路は、飯島川（一般下水道）であり、度々浸水被害が発生している。JR4線（東海道、横須賀、根岸、貨物）の軌道横断の問題から一部流下能力の不足する箇所があるが、拡幅が困難な状況にあり、雨水調整池の整備を計画している。低地区には、放流先河川の計画高水位よりも地盤が低い地区も存在しており、潜在的に浸水危険度が非常に高い地域である。</p> <p>近年の最大被害は、平成16年に時間最大75.5mmの豪雨（台風22号）を記録した際、区域内で61戸の浸水被害が報告された。過去10ヵ年においては、平成26年に発生した時間最大74.5mmの豪雨（台風18号）において、区域内で15戸の浸水被害と、道路冠水が7箇所で見られた。また、平成22、25年にも道路冠水被害が発生している。</p> <p>当該地区は、高水位時にはポンプ排水を必要とする低地区を含み、浸水時には生命の保護、都市機能の確保および個人財産の保護の観点から、早急な浸水対策が求められる。</p> <p>なお、本地区は、過去10年間に3回以上の浸水実績があり、当該浸水の延べ浸水面積が1.5ha以上の地区であり、下水道浸水被害軽減総合事業による浸水対策を実施している。</p>
整備目標	<p>①本計画における対象降雨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本計画における対象降雨：75.5mm/hr ・ 目標とする理由：平成16年10月台風22号最大降雨 ・ ハード整備による整備水準の目標：低地区57.9mm/hr（10年確率降雨） <p>②目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 生命の保護の観点：床上浸水の防止 ii) 都市機能の確保の観点：交通の支障となる道路冠水の防止 iii) 個人財産の保護の観点：家屋浸水の防止 iv) その他：特になし <p>③ハード対策，ソフト対策及び自助の役割分担について</p> <ul style="list-style-type: none"> i) ハード対策 <ul style="list-style-type: none"> 施設整備により低地区57.9mm/hrの降雨において浸水被害を防止することを目的とする ii) ソフト対策及び自助 <ul style="list-style-type: none"> 施設整備で対象とする降雨量を上回る降雨75.5mm/hの降雨において、下水道管理者による情報提供、地域住民等による土のう設置など、それぞれの主体が対策を実施することにより、市街地部の浸水深を機能保全水深にとどめ、被害を出来るだけ小さくする。また、ハード整備完了までの間や、地下施設などの局所的な浸水にも対応するために配備する移動式排水施設により、被害の最小化を図る。

項 目	内 容 ・ 施 策 等			
内水ハザードマップ策定状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有 (令和3年6月策定済み) ・ 策定予定 			
主な事業内容	公 助	ハード対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雨水貯留施設の整備 貯留能力 15,600m³ ・ 雨水管渠の整備 排除面積約 11ha
			下水道管理者以外	
		ソフト対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管路清掃・内水ハザードマップの提供 ・ インターネット等による雨量情報の提供 ・ 移動式排水施設による水防活動
			下水道管理者以外	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット等による雨量、河川水位の情報提供 (総務局緊急対策課、下水道河川局河川企画課) ・ 電子メールによる河川水位上昇時や降雨の警報・注意報発表時の情報配信 (総務局緊急対策課) ・ 土のう設置に対する支援 (栄土木事務所)
	自 助	ハード対策		<ul style="list-style-type: none"> ・ 土のう配備 ・ 止水板の設置
		ソフト対策		<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路雨水ますの清掃 ・ ハザードマップによる自助・共助促進

備考) 事業内容については主な施策について具体的な実施数量を記述

また、下水道管理者以外が行う施策については、道路管理者など実施主体、制度要綱等を具体的に記述

* 下水道浸水被害軽減総合事業に該当する場合、既存の施設調書を別途添付すること

年度計画 (百万円)

名称	令和7年度	令和8年度	令和9年度	計
雨水管渠	409	146	146	701
貯留池	-	-	-	-
計	409	146	146	701

備考) 事業内容に位置づけた施設について年割額 (事業費) を記述。

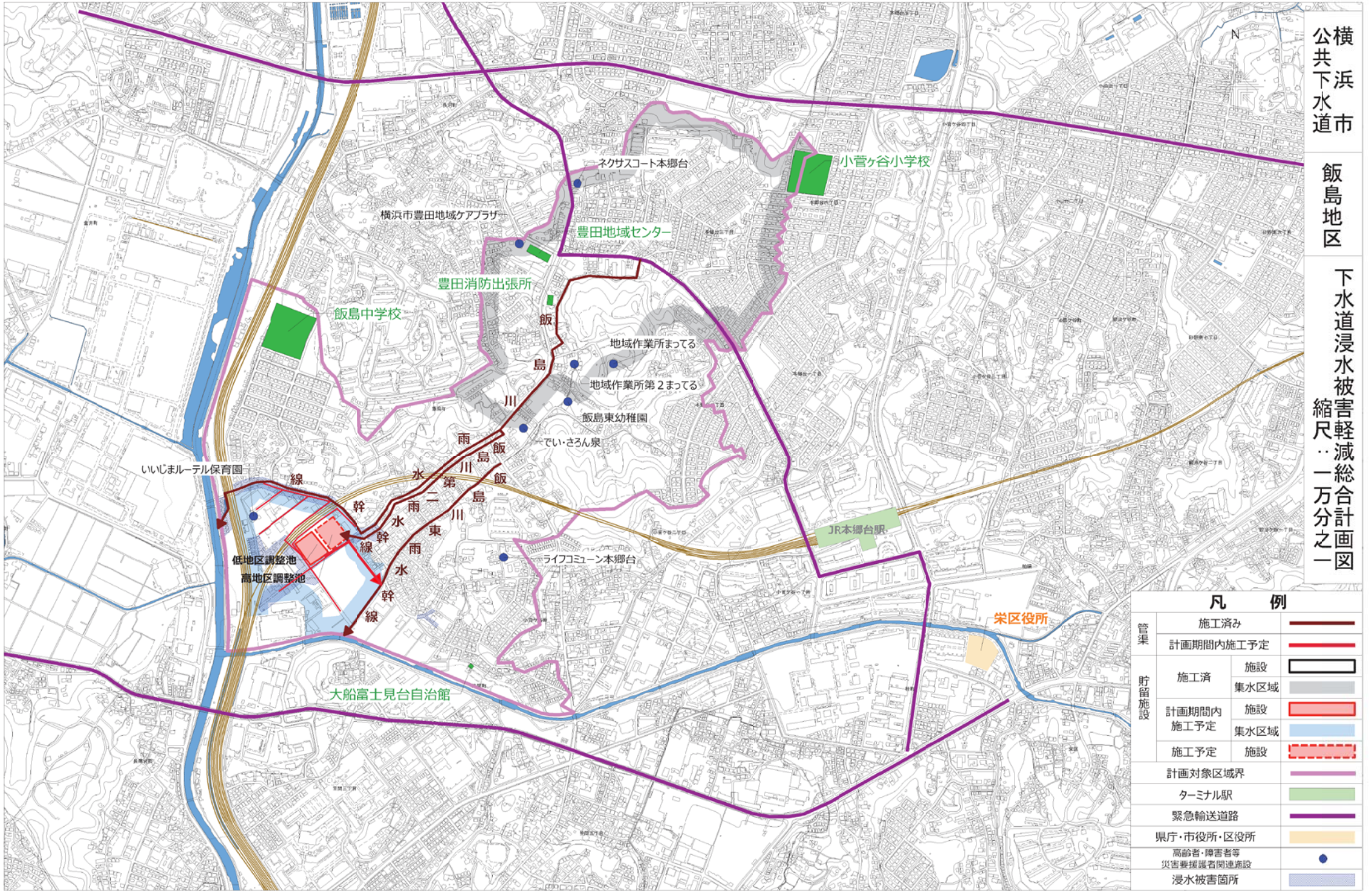
整備済のものは含めない。

項 目	内 容 ・ 施 策 等
整備効果	<p><事業評価の内容></p> <p>浸水被害の軽減便益：7,308 百万円が削減される。</p> <p>B/C：1.2</p> <p>経済的内部収益率：7%</p> <p><その他の定量的な効果></p> <p>都市浸水対策達成率：66.0%→66.0%</p> <p>※本事業により約 11ha の都市浸水対策達成となりますが、率の変動はありません。</p> <p>ソフト対策，自助の整備効果等：</p> <p>内水ハザードマップによる情報提供及び土嚢の配備等を併せて行い，家屋浸水等を防止するとともに，既往最大降雨に対し機能保全水深 15cm を達成する。</p>
放流先河川との調整状況	<p>飯島地区の放流先河川である 2 級河川柏尾川及び準用河川いたち川は 特定都市河川に指定されており，神奈川県において流域水害対策計画を現在策定中である。策定中の計画では，5 年確率までは河道整備で，10 年確率までは遊水地等の流域対策を含めた整備を進めることとなっている。</p> <p>下水道の整備目標としては，高地区は 5 年確率，浸水被害ポテンシャルの高い低地区は 10 年確率に対応した整備を行うこととなっているが，本事業計画の低地区の雨水は，河川整備が完了するまでの期間は流出量の全量を貯留し，放流先河川の水位を考慮して排水する方針で河川管理者との調整を図っている。</p>
その他	<p>放流先河川である 2 級河川柏尾川及びいたち川は，特定都市河川に指定されており，流域水害対策計画を現在策定中である。そのため，雨水調整池からの放流に際し，河川水位を十分に考慮する必要があることから，雨水調整池や放流管渠内に水位計を設置し，観測する計画である。</p> <p>本市では，区災害対策連絡協議会を設置し，地域に対する防災活動の指導・助成を行っている。また，当該地域においては，区役所，消防署が中心となり，自治会，町内会を単位とする「町の防災組織」づくりを推進し，ボランティア・自主防災組織等により防災活動を行うこととしている。</p>

横浜市
公共下水道

飯島地区

下水道浸水被害軽減総合計画図
縮尺…一万分之一



凡 例		
管渠	施工済み	
	計画期間内施工予定	
貯留施設	施工済	
	施設	
	計画期間内	
	施工予定	
	施設	
	計画対象区域界	
	ターミナル駅	
	緊急輸送道路	
	県庁・市役所・区役所	
	高齢者・障害者等 災害要援護者関連施設	
	浸水被害箇所	

